

「シネマ・チュプキ・タバタ」

JR田端駅北口から徒歩5分。商店街の中ほどにあるシネマ・チュプキ・タバタは、日本初のユニバーサルシアターだ。車いすスペースのほか、大音響が苦手な人が、安心して鑑賞できる防音の小部屋もある。



シネマ・チュプキ・タバタの外観



手で触ってわかるようにモザイクでできた看板

代表の平塚千穂子さんとスタッフの宮城里佳さん



シネマ・チュプキ・タバタ

東京都北区東田端2-8-4
(JR山手線・京浜東北線 田端駅徒歩5分)
電話 / 03-6240-8480
営業時間 / 10:00~23:00(上映作品により異なる)
水曜定休



森をイメージして内装された館内

各座席につけられているイヤフォンジャック

スピーカーは前方と天井にも設置。また聴覚障害者が音を振動で体感できる「抱っこスピーカー」の貸し出しもある。



上映される作品にはすべて、音声ガイドと日本語字幕が付けられている。音声ガイドとは、画面に映っている場面の説明を録音したもの。各座席にイヤフォンジャックがあり、イヤフォンで音声ガイドを聴ける。音声ガイドの台本作成、ナレーションを担うのは講習を受けたボランティア。130人の登録者のうち4、5人がチームを作り、1カ月かけて制作する。

この映画館があることで、新たなつながりも生まれている。毎月発行している上映案内チラシの表紙には、障害者アート作品を掲載。障害者支援施設「工房集」のアート作品を店頭で販売している。コロナ禍で休館中、サポーター登録と寄付・グッズ購入でたくさんのお応援があった。6月13日から営業再開。席数を半減し、予約を推奨している。

「作品を自当てにきた人が、障害について知るきっかけになっている。障害者のための映画館ではなく、誰もが来られる映画館。きっかけづくりのモデルになれば」と代表の平塚千穂子さんは話す。

編集委員 山中大輔



地域を基盤としたソーシャルワーク 住民主体の総合相談の展開

岩間伸之、野村恭代、山田英孝、切通堅太郎 著
中央法規出版、2019年12月
本体2600円+税

「ソーシャルワーク」の定義は、世界的には、社会変革、社会開発、個人の解放などと幅広く、担い手は民間のボランティアも含む。それに対し、日本では、社会福祉士、精神保健福祉士など社会福祉の専門職の仕事という狭いイメージが強い。本書は、「生きづらさ」を抱えた個人を援助する活動を起点に、家族、友人、環境といった背景にある課題にも目を向け、社会変革も視野にいれる。書名の「地域を基盤とした」とは、「個を地域で支える援助」かつ「個を支える地域をつくる援助」であり、内容は、故岩間伸之の大阪市立大学大学院教授

の理論をもとに、北海道津別町の「身近な福祉相談所ぽっと」における「総合相談」に至る。それは、細分化された専門機関の機能に合った課題のみに対応してきた従来型のものではなく、法律の枠を超え、当該個人に合わせた「伴走型支援」といったオーダーメイドの援助である。その方法論は、「相利共生」の生態学、システム思考を取り入れたジェネラル・ソーシャルワークの理論を基礎にして地域を基盤としたソーシャルワークを構築し、「総合相談」に至る「三層構造」をしている。専門職のみがそれを担うの

は難しく、地域社会の多様な担い手によるインフォーマルサポートが必要となる。そうした人材を生かしながら、本人のプライバシーを守ることを前提に、ケースカンファレンスなどを通じて本人の「気づき」を促し、本人が主体的に解決するために支援する体制づくりが求められている。実際、地域社会には、広い視野とネットワークを持った人材は数多くいるはずであり、ソーシャルワーカーは、そうした人材を発見して育てるといった任務を担うというのが評者の感想である。

編集委員 神野 武美

ボランティア・NPOをもう一歩深く **市民活動総合情報誌**

ヴォロ

「喜んで～する」を意味する
【Volo】は【volunteer】の
由来となった古典ラテン語
で市民の自発性を表します。

Volo
8・9

No.532 2020
<http://www.osakavol.org/volo/>

《特集》

インクルーシブボランティア 「誰もが参加できる」を目指して

● 多様な人々の参加を実現するインクルーシブボランティア

インクルーシブボランティア研究会 岩本裕子 南多恵子

● 今、振り返って考える「僕にとつてのボランティア」／高島市安曇川地区ボランティアセンター「安中カフェ」／エリザベス・ストローム記念 山王子どもセンター

● あらゆる人の「参加」を支えるために

チームアップローチをとりいれたコーディネーションの可能性



《この人に》

松田 素子さん

編集者、作家

《現場は語る～コーディネート現場から》

コロナの中でも、つながりを絶やさない
——「集まれなくてもつながる方法」の発信

《台風災害・長野発》

コロナにも負けない復興へ向かって
——令和元年東日本台風災害から10カ月

《V時評》

「感染者参加OK」の活動でWITHコロナを乗り越ろう
知らず知らずのうちに、参加の機会を奪っていないか